



よろこび

2019.9.20 第122号

年金局・「隠退教師を支える運動」通信

今号は、104歳になられた笠井政子先生と96歳の小林喜成先生にこれまでの歩みと近況をご寄稿いただきました。

一粒の麦

笠井政子

8月28日で104歳になりました。クリスチャンの両親のもとに、アメリカのフレズノで生まれ、9歳の時に帰国して、小学部から神学部女子部を卒業するまで青山学院で学びました。卒業後は婦人伝道師として当時の牛込メソジスト教会で働き、笠井昌雄牧師と結婚しました。

夫の昌雄は、北朝鮮海州メソジスト教会へ赴任中に召集を受け、大陸北地で戦死してしまいました。夫が戦地へ発つ前に息子3人に幼児洗礼を授け、「これから3人の子供を抱えて大変でしょう。困るこ

とがあつたらイエス様に相談しなさい。必ず道を開いてください」と言ったのが遺言となりました。今日までこの言葉に支えられて生きてきました。

終戦から日本に引き揚げて来るまでの困難さは、拙い著書『私の出エジプト記』に書きました。今考えても奇跡としか思えないような力に導かれていました

が、親しくしていた救世軍の権牧師や小使いさんが危険を冒して脱出を手伝ってくださり、海州を出て3週間の放浪の旅の末にカナンの地、東京の実家に戻ることができました。

帰国して落ち着く間もなく、1946年頌栄教会担任牧師に就任、1965年正教師按手を授かり、1983年に隠退しました。隠退後は頌栄教



笠井政子先生

会による各家庭集会で奉仕をさせていただきました。40年以上続いた集会もあり、共に聖書の学びを続けることができました。頌栄教会では歴代4人の牧師に仕え、今は清弘剛生牧師のもとで礼拝の恵みにあずかっています。

足も弱くなり一人での外出は困難になりましたが、息子の嫁や孫と共に毎週礼拝出席を許されて、教会員の方がたと

共により、交流できますことは本当に幸せです。振り返ってみますと、まだ幼かった3人の息子を連れて帰れ

たことは奇跡としか考えられず、女手一つで育てていくことは大変厳しく、忍耐のし通しでしたが、私の不安を神は見逃されませんでした。いつもみ言葉と、夫の遺した言葉に励まされ力づけられました。

若くして戦死した夫のことを思い悩みましたが、「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ」。夫はイエス様に出会い伝道者になり、死んでからも多くの人を導きました。振り返れば、

協力者／三男妻笠井ひろ子

苦しかったことは全て私の感謝に変えられ、あつという間の年月でした。長命を与えられ、支えられておりますこと、皆さまに感謝申し上げます。

(かさい まさこ)

主に感謝

小林 喜成

この4月で96歳を迎えた。現役牧師を隠退してもう22年になる。恩寵の下に老後を教団の年金に支えられて生かされていることを心より感謝している。しかも隠退後も毎週のように仙台市内の若少教会に協力牧師として講壇に立つことを許されている。

思えば、戦時中、国家弾圧のため閉校の憂目をみた神学塾から1943（昭和18）年

4月、新たに合同教団立養成校として開校された「日本基督教団東部神学校」（現東京神学大学）の第一期生として入学した。校長は村田四郎牧師。なにしろ当時の神学校も名ばかりで、軍事教練の教師は青山四郎牧師、そしてあの悪名高い『国体の本義』の編纂に関わった、法学者の大申兎代夫が昂然と法学概論の講師。さらには聖書と共に日本の古典『記紀』を学ばされる有様であった。

入学をしたその秋、学徒動



小林 喜成 先生

員令で徴兵。その出征壮行会で若かりし北森嘉蔵助教授は「浜までは海女も衰着る時雨かな」との古句をハナムケの詞とした。「戦地に向かう神学学徒よ、決して身を濡らすな」の隠喩だった。

復員、復学して、戦後の荒廃した中で地方の開拓伝道に挺身し、教団に捧げた。戦後來日の、鳴り物入りのラクーア・クルセード（伝道）も、

歴史的に見れば評価が功罪相半ばするが、忘れられぬ思い出である。塩を舐めるが如き窮乏の中であつても、地方伝道の活力は実に愉しく、やりがいがあり我が生涯に悔いなしである。教団の転換期にあつて、才氣煥発な或る後輩牧師が「教団をバカにしても罰は当たらぬか」と叫び物議を醸したこ

とがあつたが、彼が今生きていたら教団の現状を何と評するだろうか。

改めて今、私も高齢隠退教師は全国の諸教会ならびに全国の篤実なる信徒の方がたの、隠退教師を想う優しさに慰められ勇気づけられている。

ところで戦後、教団の幹事で、のち東北伝道を担われた骨太の牧師があつた。彼は他の教師が老後の備えとして保険や年金掛金を心にかけることは「不信仰」であると豪語していた。ところがその後本人の最晩年が実に気の毒であり、当該の教会が責任を負い、大変な苦勞をされたことを憶えている。

かつて教団紛争で、全体の教勢とその機能がストップした時代があつた。地方教区の人事を担当し、教職の萎縮を戒め、「宣べ伝える者がなければ」如何にすべきか、祈りに心を注いだ。今も教団のため、全国諸教会のため祈る日々である。（こばやし よしなり）

「隠退教師を支える運動・1000円献金」

感謝と祈りをもって

東海教区推進員 五味 優子

私が「隠退教師を支える運動」東海教区推進員として加わらせていただきましたのは、2017年度からになります。この役をお引き受けする時、背中を押してくださったのは今は亡き小林貞夫兄です。小林兄は12年の長きにわたり教団年金局理事長として、まさに東奔西走して教団年金への理解と協力を訴えられました。同じ山梨の日下部教会に属する者として小林兄の尊いお働



五味 優子さん

きをお思うにつけ、私も微力ながらお役に立てればと思います。小林兄は「隠退教師を支える運動」は年金局の命綱です」と言い続けられました。さて、私の教会では婦人部の奉仕活動の一環として「1000円献金運動」を長年続けてきました。一昨年推進員となり、何か教会内でもっと献金を増やすことはできないかと考え、担当の方とも相談し、教会員全員に呼びかけることにしました。細かく煩雑な仕事で大変かと思いましたが、担当の方は快く引き受けてくださり、お陰で多くの方のご協力を得ることができて年々献金額も増え感謝です。毎年2月頃に新年度に向けて、東海教区内の95の教会、

伝道所にあてて、八嶋由里子姉と分担して「1000円献金」協力をお願い文を出しています。

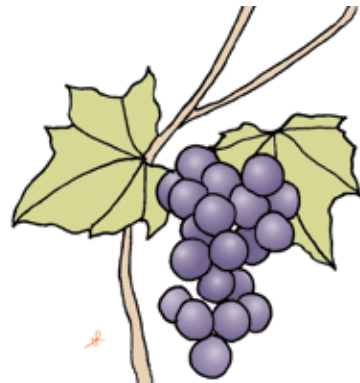
今年5月に、事務局から2018年度の献金状況が送られてきましたが、年金支給額が多い割には、掛金や「謝恩日献金」、「1000円献金」が少ないのが現状です。また「謝恩日献金」と「1000円献金」の両方をしている教会がまだ全体の半分かよつとで、片方しかしていない教会もたくさんあります。

東海教区では、この6月4日、5日、甲府に於て「教区婦人研修会」が開催されました。その折集まった教職、婦人方は約370名でした。推進員の八嶋さんと私は婦人専門委員長にお願いして、約5分間のアピールの時間をいただきました。今回は私が教団年金のしくみと現状について説明し、信徒運動として「1000円献金」にさらなるご協力をお願いしました。これか

らも分区や教区の集会でもっと協力を呼びかけなくてはと痛感しております。

教団の教師として、尊い使命感をもって働きたいと、現在では隠退された先生方、また主のご栄光を表すために今なお働きくださっている教師の方がたが、隠退後も安心して生活できますよう、感謝と祈りをもってお支えしたいと願うものです。

(こみ ゆうこ／日下部教会)



業務室より

— 年金を受けている方へ — 年金送付のお知らせ

10月の定例送金のご案内をします。

送金内容

①謝恩金受給者

2019年度第3期分給付額
(2019年10, 11, 12月分)

②退職年金受給者

2019年度第2期分給付額
(2019年7, 8, 9月分)

送金日 2019年10月10日(木)

期日に、ご指定の金融機関に入金されていない場合は、ご連絡ください。

次回送金 2019年12月10日(火)

住所・年金振込先の変更は、できる限り早急に書状、FAX、メールで年金局にお知らせください。

☆2019年度「受給者名簿」を同封いたします。正確を期したつもりですが、誤り等がございましたらお知らせください。また名簿の取り扱いにはご注意ください。現況届で住所等の記載を望まないとされた方は、住所欄が□の表記となっております。今年4月以降に受給者となられた方は記載させていただいています。

非記載希望の方が多くなってきていることもあり、2020年度の現況届で、名簿の発行について皆さまのご意見を伺いたいと考えています。

☆今年4月以降、新たに29名(含む再隠退3名)の隠退教師と9名の遺族の方が受給者となりました。去る7月10日の定例給付日には、謝恩金(遺族扶

助料)、退職年金合計1億1255万円を740名の受給者にお送りいたしました。

☆6月27～28日(木・金)に第41総会期第2回年金局理事会を開催いたしました。出席者29名。世間一般の年金への関心が高まってきていることも踏まえて、今回は「公的年金制度の現状と将来展望」と題して制度検討諮問委員会の顧問であり、年金制度に精通しておられる山下陽久氏から1時間半にわたる講義を受けました。

また各教区代表理事の間では、「謝恩日献金」および「隠退教師を支える運動・100円献金」への教会参加率、現役教師の年金加入率の向上と、掛け金の継続に向けて等の活発な意見交換が行われました。

☆6月より奥羽教区の代表理事が村岡博史先生に替わられました。前任の邑原宗男先生は23年の間、理事としてご尽力いただきました。感謝いたします。

☆今号では、笠井政子先生と小林喜成先生に原稿をお寄せいただきました。原稿依頼の電話を差し上げた際には、お気な声を聞くことができました。快く引き受けてくださり感謝です。

☆今夏も記録的な暑さが続きました。熱中症で多くの方が命を落とされ、各地で台風や大雨などによる被害も多くありました。皆さまの上に主の平安がありますように、そして夏のお疲れが癒されますようにとお祈り申し上げます。

(村山めぐみ)

日本基督教団年金局 「隠退教師を支える運動」推進委員会

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
年金局 Tel: 03(3202)2080
Fax: 03(3202)2081
mail: nenkin@clock.ocn.ne.jp
支える運動 Tel: 03(3202)2081 (Fax 兼用)
mail: sasae@flute.ocn.ne.jp